

## タウンミーティング市長講演 「シビックプライドで北九州市の未来を描く」

日時：平成 26 年 7 月 21 日（祝）13:00～15:00  
場所：北九州市まなびと E S D ステーション

みなさん、こんにちは。

最近によく「シビックプライド」という言葉が使われます。

従来の日本人の感性と一味違った、インターナショナルで世代を超えた若いウェーブが始まっているように、言葉を通じて感じています。

さて、この言葉はまちへの誇り、自分の住んでいるまちが好きだ、といったようなフィリングをあらわす言葉だと思います。

今日は「海の日」にも関わらず、この「E S D ステーション」にお越しいただき、感心しております。素晴らしいことです。あとから出てくる様々な提案に期待し、ワクワクしつつこちらに参りました。

少し、近未来のことを考えてみたいと思います。

小倉駅、これは街なかの非常に便利の良いところにあります。その北側新幹線口は、昔は工場地帯でしたが、ここが徐々に錆びれてきました。そこでここを「総合展示場」、「国際会議場」に開発しました。有名な建築家磯崎新氏によるものです。有名な建築家の建物なだけに、柱を一本も使わず、広々とした空間をロープを通じてつくり出しています。

しかしながら、若い人達にもっと魅力を感じていただき、その空間を新幹線駅の近くにとどのように集積するかを考えた結果の一つが、「スタジアム」です。3年後に完成します。ここでは、サッカー、ラグビーだけでなく、コンサートも開催可能です。コンサートなら、「メディアドーム」という競輪場があるではないか、という意見がありますが、競輪の日程は直前でなくては分かりません。ビックコンサートの日程は2年前、若しくは1年前から決まるため、どうしても大きなイベントを打ちづらいという悩みがありました。市民が芝生の上で、楽しいひととき、熱い感動を共有しながら、身近なところにアスリートの熱い息や汗がほとばしり、スポーツの醍醐味が強烈なインパクトとなって観客に伝わってくる、そういうものをつくらうとしています。

次に「あるある City」。少し不思議なネーミングですが、サブカルチャーの拠点をどこに作るかという議論が東京であった際、九州で初めて小倉駅前につくりました。ここに「漫画ミュージアム」という公の施設を入れました。本市からは、作家や漫画家、アーティストが数多く出ています。昔、日本が貧しかった頃、列車が小倉駅を出て行くのを長屋から見て、絵を描いていた青年がいます。銀河鉄道 999 の作者松本零二さんです。足立山を登っていくように、銀河鉄道 999 のコンセプトが湧いてきたそうです。

そのほか、わたせせいぞうさん。格好の良いあか抜けた絵を描かれます。あれが、戦後の時代の青春時代を送った方の絵なのですね。

次に、コスプレです。当初、市役所がコスプレに力を入れることに抵抗がありました。

「スタジアム」をつくり、「あるあるCity」をつくる。次に「コスプレ」。どうしたものかと悩みました。

その前に一つ、コレットの前で「ストリートダンス」大会を行いました。当初私は、ストリートダンスに警戒心を持っていました。といいますのも、息子が高校生時代ストリートダンスを学校で行うなどし、先生にお叱りを受けたことがありました。しかし、わが子のストリートダンスを見たとき、みんなで真剣に打ち込む姿に、これは凄くガッツのあるスポーツだと思いました。皆があれだけ打ち込んでいる。みんなで盛り上がること、それが大事だと感じました。それで、市長杯という形で公認のアート、スポーツという位置づけでコレットの前で実施しています。

コスプレをYouTubeで調べてみました。イタリアのミラノの大会やパリの大会を見ると、多くの若者が非常に楽しそうな雰囲気でも盛り上がっていました。多くの若者の屈託のない明るい笑顔やおしゃべりをしている姿を見て、自分の不明を恥じ、今度はコスプレをやってみよう！！と言い、北九州市がコスプレの聖地となれないか、プログラミングに入ろうとしています。

次に、市外から学生や企業人が本市に来られたとき、「正直、北九州市は怖いまちかと思っていました。実際住んでみると良いところなのに、安全という面でのマスコミによるイメージギャップで北九州市は損をしていますね」と多くの方に言われます。ある東京から来られた支店長さんに、「私はこちらに赴任する際、上司に水盃を交わしてきました。でも、この話が今、市長に出来るのは、北九州市がそうではなくて、良いまちだとわかったからです。」と、言われました。

「安全・安心問題」をどう考えるかですが、平成14年頃、この時代は日本の安全神話が崩壊したといわれた時代です。全国的に犯罪減少に向けた活動が行われ、北九州市では7割も劇的に減少しました。20政令市中のワーストは、堺、大阪、名古屋、そして福岡です。北九州は9番目です。良い都市は、川崎、浜松、横浜で、川崎が最も安全なまちだと数字の上ではなっています。数年以内にベスト3位に入ることを目標に、今年より「安全安心条例」をスタートしています。

どのようなことを行っているかと言いますと、「安全マップ」を作ろうと、子どもたちとまちを歩き、時間を共有しながら、マップを作成しています。学生さんたちにも手伝って欲しいと思っています。普段から日頃住み慣れた地域の安全を気にかけることによって、効果がでています。防犯カメラは確かに効果があります。でもそれ以上に効果があるのは、住民の方々の意識です。お互いが自分たちのまちは自分たちみんなで守ろうとする気持ち、その市民の気持ちが防犯カメラより遥かに効果があるのです。今年初めて全市一斉一万人がパトロールに立ち上がります。また秋には、カリフォルニア発の「シェイクアウト」という新しい防災の催しを行います。ブザーが大きな音をたてて鳴り、その時、学校でも企業でも同時に一斉に待機活動に入るというものです。また、安全に関してもパトロールを全市的に一万人が同時に行うなどし、近い将来横浜に並ぶ最高に安全なまちを必ずここで実現したいと思っています。

次に、BCPという言葉があります。これは、事業を継続できるという意味です。例えば、東京で大きな地震が発生するかもしれないとか、南海トラフ巨大地震で津波が発生するかもしれない、といったような不安を皆さん抱いているかもしれません。ここ北九州は津波が発生しない地層になっており、本市は非常に安全です。1901年、明治政府が鉄の拠点はどこに築くか考え全国から選んだのは、八幡、北九州市でした。いかに本市が災害リスクが少ないかを示している政府の結論でした。

「ウェブガーデン」という会社が本市に進出を決めました。「ウェブ」や「フェイスブッ

ク」のデザインをする会社です。東京でお客さまを掴み、災害リスクの少ない、事業が間違いなく継続できる北九州市を選んでいただきました。

三井生命保険会社は関東に多数事業所がありますが、この事業所を今年まとめて北九州市に移します。

東京への一極集中があまりにも進み過ぎる中、同時に経営者のひとつのクールな判断として、ローカルな良い所を選ぶという流れも進んでおり、北九州市は最も大きな適地のひとつであるということ、我々のシビックプライドの一つにしたいと思います。

世界で最も悩ましい生活の問題を抱えているのは、急成長し人口が都市にどんどん集中しているアジアの都市です。ここには、ごみ問題や、貧困、貧困から連鎖する教育の問題や、環境問題、交通問題など、様々な問題が多数集積しています。よって国境を越え都市から都市へ知恵を出し、人材交流を行い、これらの都市の円滑な発展を助けるか、そのことがアジアにおける平和と反映の大きな礎になっていくと我々は信じています。本市の職員や民間の皆様方は、志が日本で最も高いと思います。日本政府は、カンボジアで人が多数殺され、飲み水さえもろくにないといった危機的状況にあった際、国連で真っ先にカンボジアを助けようといいました。とはいえ、生活インフラである上下水やごみ処理などは自治体で行っており、自治体が動かなければ何もできないのが現状です。地雷のある恐ろしい状況の中、北九州市職員は「皆が行かないのであれば、我々が行こうではないか」と、言ってくれました。

蛇口まで届くのに、8割の水が漏水してしまう状況の中、10年かけて漏水は先進国なりに殆どない、24時間飲める水を、世界の奇跡をプノンペンで行ったのは、北九州市の水技術です。インドネシアやカンボジアなどでもこのようなことを行ってきました。そのことを日本で最も生活インフラやエコビジネスの先頭を走るまちとして、今年紹介していただきました。そういった意味で、上下水道、水技術、生活インフラ、エコビジネスに関して、本市はトップランナーであるということを誇りに思っていたきたいと思います。

続きまして、ESDについてです。持続可能な開発のための教育を行うという、国連を中心に普及に努めており、北九州市は国連の選んだ拠点の一つになっています。

ESDで何をやるのかと言いますと、地球温暖化問題やエネルギー問題、男女平等など様々な課題を扱っています。本市は、「未来パレット」という愛称で、素晴らしい魅力ある社会をつくっていくということで、女性たちを中心にESDの提唱に努めてきました。実は公害の克服に関して、北九州市は全国でも非常に珍しい歴史があります。婦人会の女性たちが、大学で学び、企業を訪ね、役所を動かし、まさに女性の力で見事に解決しました。女性の力で世の中を動かしたのは、フランス革命もそうですが、本市の公害克服もそのひとつです。この良き伝統はESDの活動にも受け継がれています。この活動を、大学生や高校生などにどのように広めていくかが、北九州市の重要な政策の一つであり、また日本政府が目指す道でもあります。あらゆる問題はリンクしていて、みんな結びついている。それらを正しく認識し、そして変えていこうとする決意と行動力などを養っていこうという趣旨だと思います。

現在人口は1億2,000万人ですが、人口は数年前から減りはじめており、50年後に人口はどうなるのかと言いますと、3,000万~4,000万の人が減り、4割が65歳以上になるのでは、と学者は言っていますが、今年の政府系の日本創生会議のプレゼンテーションでは、自治体の半数が潰れてなくなってしまうのではないかと、強烈的なインパクトを持って警告を發しました。では、日本創生会議の結論はどういったものかということ、どんどん若い人々や女性が東京へ流れ一極集中が進む、このことを食い止めること、地方の中で女性や若者がどうすればもっと幸せに暮らせるようになるか、そのことを国や地方も地道に

探すが、人口は減っても1億人程度にとどめるために必要だと、現在議論されています。

現在本市の人口は96万人程度ですが、このままいきますと78万人まで落ち込むという可能性が指摘されています。我々とすれば、どうすれば若い人に魅力を感じてもらえるのか、どうすれば女性が地方で自分たちの良い仕事を見つけ、幸せに暮らしていけるのか、この都市が短期間にどこまで変わるのか、これが私たちが抱えている課題であります。

子育て・教育についてですが、「子どもひまわり学習塾」を今年から始めました。子どもたちが大学生などのチューターたちに教わり、いきいきと学んでいる姿を、ここで見ることができます。

経済人の有志が3年前市役所を訪れ、今後は企業や経済界も変わらなければならない、もっと子どもたちと触れ合い、大切にしなければならない、というお話をいただきました。

このとき、民間から2名の校長を登用しました。いかにすれば民間とのコラボが得られるかが、教育改革の原点だと考えています。

これから以降は、若い世代の皆様方の素晴らしいご意見、ご提案を聞かせていただくチャンスです。ワクワクして皆様のご意見をお待ちしたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました。